

ワシントン大学短期語学研修を経て

国際文化・協力専攻（欧米文化分野）

水落寛人

1. はじめに

いつからか漠然と憧れていた留学が実現したことの価値を、今になってようやく測ることができます。まさに夢のような日々でした。たくさんの違いを生で見て、聴いて、感じて、自分の世界観が一気に広がりました。旅行ではなく留学となると、あらゆる未知の物事への恐れを感じずにはられないものですが、それを乗り越え、勇気ある一步を踏み出すことが成長なのだ、今回の刺激的な経験を通して改めて思いました。きっかけをくれた友人、快く見送ってくれた家族、その他大勢の支えて下さった方々に感謝を捧げます。

2. 留学中の活動

私のホストファミリーは50代のフィリピン人女性1人と、犬が2匹でした。といっても社会人の息子さんはほぼ毎日家に帰ってきて気づくとまたいなくなっているという感じだったので、彼もホストファミリーだったと言うべきかもしれません。家は豪邸で、裏庭にバスケットコートとバーベキュー用のウッドハウスがありました。おかげで毎日バスケットをすることができ、犬とボールの奪い合いをして楽しんだりしていました。友達を招いてバーベキューもしました。テレビ付きの自分の部屋も与えられ、豪勢な生活に大満足でした。

ワシントン大学での初日は、正直ショックでした。今回のプログラム参加者の大多数が日本人だったからです。しかし、やはり中東や北欧など、英語を母国語としない外国人も当然参加しており、なによりレベル分けによって構成されるクラスの担任がアメリカ人であることから、そのような気持ちはすぐに薄れていきました。授業は平日5日間の午前だけで、内容は配布されたテキストワーク（文法やイディオムなど、日本の大学生にとってそれほど難しいものではありません。）や映画鑑賞、大学近郊の町に行って地元の人々に話しかけるといったものでした。どの授業も楽しくなるように工夫がなされており、堅苦しさは全くありませんでした。

平日の午後と週末は完全に自由なので、本当にたくさんの場所に行きました。ダウントウン、水族館、美術館、野外フェス、自然公園、マウントレーニア、挙げるとキリがありません。1泊2日で船に乗ってカナダにも行きました。私はバスケットコートのある場所に足を運び、地元の若者たちに声を掛けて一緒にバスケットをするのが大好きでした。スポーツを通じて距離が縮

まるというのは世界共通なのだと感じ、いくつもの一期一会に感動していました。

3. 留学の成果

日本に帰ってきてから自分自身で最も感じた変化は、外国人や英語に対しての心の在り方です。もともと人見知りをするタイプではありませんでしたが、今までは英語を理解しようとすることに精一杯で、会話を楽しむ余裕はあまりありませんでした。それが今では英語を話せる機会、聴ける機会があると嬉しく思います。さらに、容易に想像できることだと思いますが、リスニング力は間違いなく上がりました。私は SAS のボランティアスタッフをしていますが、そこで Andre や Amy が話す英語を早いとは思わなくなりました。それどころか Andre は学生が理解しやすいようにゆっくり話すので、アメリカ人らしいスピードで話す Amy の英語の方が聴きやすいと今では思います。また、映画を見ていると字幕を読みながら英語が聴こえてきます。もちろん完璧にはありませんが、部分的にでも聴き取ることができると嬉しいものです。

3週間という短い期間では飛躍的に英語が話せるようにはなりません。しかし英語に慣れることはできます。それによって生まれた自信が、何よりの成果です。

4. これから行く人へのアドバイス

英語に関する備えよりも、シアトルやアメリカ全土に関する知識を得ておく方が良いと思います。自由時間がたくさんあるだけに、行きたいと思う場所や行き方、費用などを事前に知っておくと便利です。近場なら道行く人に尋ねて解決ですが、遠出するとなると計画が必要です。シアトルに行ったら絶対に買いたいものがある人は、それも決めておくことで余計な時間や金銭的な迷いも減ります。英語の勉強はたしかに行く前にしておく方が良いのですが、リスニング教材で耳を慣らしても本物はもっと聴きにくいです。お年寄りの方などは声もこもっていますし。単語を覚えたり文法を確認したりするのは良いと思います。私は映画を英語音声・英語字幕で見たり「ホームステイ英会話」という本を買って覚えたりしていました。「地球の歩き方」は目を通しておいた方が良いです。あとは、自分のことや日本のことについて質問されたときに答えられれば望ましいですが、正直すべてはどうとでもなります。とにかくポジティブに、すべてを楽しむ姿勢さえあれば、すばらしい留学になると思います。

5. 今後の課題

心がけていることは、今回の留学をただの楽しかった思い出として終わらせないことです。たった3週間でしたが世界への視野が広がり、残りの大学生活でしたいことがたくさん浮かびました。国内・海外共に、魅力的な土地は数多く存在します。手段は様々ありますが、色々な場所に行こうと思います。きっとそうした経験が自分を磨き上げるのだと信じています。ゆく

ゆくは将来の夢である小学校教師になった際、子どもたちに私が訪れた土地の写真を見せながら、そこでの人々や出来事について話し、子どもたちの世界観を広げられたらと願っています。

